

3. 留学生指導部門報告 (2010年4月～2011年3月)

出原節子

1 はじめに

留学生指導部門では、部門担当教員（出原）が以下のような業務を行っている。

1. 外国人留学生に対する修学・研究上、生活上及び異文化適応上の指導・助言
2. 異文化教育及び日本語教育
3. 留学生と日本人学生の相互理解、コミュニケーション能力を高めるための活動
4. 日本での留學生活に関わる各種情報の提供、地域交流団体等が主催する行事の案内
5. 海外留学に関する情報の提供及び留学相談

小稿では、2010年度に留学生指導部門が行った主な活動について、報告する。

2 指導・助言

以下のように面談時間（OH）を設けたが、面談時間以外にも訪ねて来る学生がいるので、時間のある限り対応している。

< 2010年度前期面談時間 >

	1限	2限	3限	4限	5限
月	OH	OH	OH	OH	OH
火	OH				OH
水	OH	OH			
木	OH	OH	OH	OH	OH
金	OH	OH	OH	OH	

< 2010年度後期面談時間 >

	1限	2限	3限	4限	5限
月	OH	OH	OH	OH	OH
火	OH	OH	OH	OH	OH
水	OH	OH			
木	OH	OH			
金	OH	OH	OH	OH	

指導部門に寄せられた様々な問題に対しては、留学生センター日本語教育部門教員及び非常勤講師をはじめ、各学部、留学支援チーム、学生支援グループ等と連携して対処した。

(1) 留学生に対する指導・助言；

留学生の日常生活に関する相談（ex: △△を修理したい。安い〇〇を買いたい。××へ行きたい。等）は、留学生センター事務室の事務補佐職員が対応しており、指導部門教員の手を煩わせることなく解決している。それらの相談件数は以下の件数には含まれていない。

件数：46件

(2) 日本人学生に対する指導・助言

件数：53件

(3) その他（富山大学以外の教育機関の学生・教職員、卒業生、外部交流団体等からの相談）

件数：18件

3 異文化理解・交流

(1) 「日本事情」

日本語研修コース「日本事情」の授業に、学内から募集した『国際交流学生ボランティア』に参加してもらい、留学生との合同授業を行っている。この授業は、①日本語能力の向上、②日本人学生による留学生支援、③異文化理解、④自文化理解、⑤異文化交流活動の拠点化、を目的としている。

(2) 見学

前期と後期に原則各1回、日本文化への理解を深めるため、日本語研修コースのフィールドトリップを実施している。それと同時に「富山大学短期留学生受入れ体制要項」に基づく短期留学生のためのスタディトリップも実施している。見学には学部生や研究生等も希望があれば参加を認めている。日本人学生も付き添いとして参加を認め、異文化交流の場としている。

・フィールドトリップ&スタディトリップ

<実施日・見学場所>

2010年6月4日（金）

富山大学芸術文化学部（高岡地区）「漆」研究室

<参加者数>

留学生 21人

センター教員 3人

・バスツアー（平成22年度留学支援関係経費）

<実施日・見学場所>

2010年11月12日（金）

瑞龍寺・瑞泉寺・井波彫刻総合会館

<参加者数>

留学生 32人

センター教員 3人

留学支援チーム職員 1人

(3) ホームステイ

公益財団法人（旧財団法人）とやま国際センターの斡旋により、1999年度後期より留学生センター所属の文部科学省国費留学生（予備教育生）に対し1泊2日のホームステイ・プログラムを実施している。

<実施日・参加者数>

2010年7月24日（土）～25日（日） 1人（22期生）

(4) ホームビジット

日本語研修コースには、文部科学省からの国費留学生だけでなく、学内公募による受講生を受け入れている。「留学生センター在籍者ホームステイ実施要項」制定時には、学内公募の学生がいなかったため、これらの学生はホームステイ・プログラムの対象者に含まれていない。そこで、富山市民国際交流協会の協力により、『日本語研修コース受講学生』を対象とした1日家庭訪問プログラムを2002年度前期より実施している。

<実施日・参加者数>

2010年7月24日(土)	1人(22期生)妻同伴
2011年1月29日(土)	4人(23期生)

(5) 異文化交流パーティー

留学生と日本人学生の交流を目的としたパーティーを春と秋の年2回、留学生センターの談話室で開催し、200円の参加費で、スナック菓子と飲物を用意している。

<開催日時・参加者数>

2010年5月26日(水) 17:00～	33人
2010年11月17日(水) 17:00～	45人

(6) おしゃべりタイム

毎週木曜日の12:00～13:00に留学生センターの談話室で「おしゃべりタイム」を開催し、留学生と日本人学生が昼食を食べながら語り合う時間を設けているが、木曜日以外にも留学生と日本人学生が昼食を共にしている姿がみられる。

(7) 異文化理解教育等への協力

県内の教育機関で行われている異文化理解教育や市・町・村主催の国際交流行事、地域の各種団体等が主催する行事等に参加依頼・協力依頼があった場合は、その要請に応じて、都合のつく留学生に参加協力を依頼している。今年度は、2人の韓国人留学生に依頼した。

<参加日・内容>

2010年12月22日(水)～12月23日(祝)
国立富山高等専門学校国際ビジネス科2年生の第二外国語ウインターセミナーへの参加

4 各種情報の提供

全学の留学生を対象に、留学生活に関わる情報を提供し、地域の交流団体等が主催する行事等の案内を留学生センターの談話室に掲示している。

国際交流団体および行事内容については「外国人留学生関係行事一覧」を参照していただきたい。

5 オリエンテーション

(1) 学部新入留学生のためのオリエンテーション

学部教職員や学生支援グループ等の協力により、全学のオリエンテーションとは別に、学部新入留学生を対象としたオリエンテーションを実施している。

<実施日時>

2010年4月5日(月) 9:30～14:30

<参加者>

学部新入留学生	20人(3人欠席)
センター教員	5人
学部教員	2人(人文・芸術文化学部)
学部事務職員	2人(経済・工学)
学務部職員	7人(留学支援チーム・学生支援チーム)

<オリエンテーションの内容>

- ・ガイダンス -1 授業料, 授業料免除, 奨学金等についての説明
- 2 留学生センターからの注意事項 (危機管理等)
- 3 学部教職員からの注意事項 (大学生活の心得, 除籍・懲戒・退学・休学, チューター制度, アルバイト等)
- ・懇親会 (昼食)
- ・キャンパスツアー

(2) 新規来日非正規生 (研究生, 科目等履修生, 特別聴講学生) のためのオリエンテーション

<実施日・参加者数>

2010年4月12日 (月) 5人

2010年10月6日 (水) 12人

<オリエンテーションの内容>

- ・学内・学外における諸手続きについて
- ・留学生センターについて
- ・学生生活について
- ・留意事項・危機管理について

6 海外留学相談

留学生センターの1階に「留学情報資料室」を設置し, 海外留学を希望する学生に情報の提供を行うとともに, 異文化理解の観点から留学の相談にのっている。今年度は, 海外留学に関する情報提供のため, 留学体験記集『留学のすすめ』を発行した。この冊子は, 2011年度に入学する五福地区の全学生にも配布する。

面談回数: 19回

相談者数: 18人

人文学部 5人

人間発達科学部 4人

経済学部 8人

工学部 1人

計 18人

希望留学先: 英語圏諸国 (カナダ, アメリカ, イギリス等), 韓国, 中国

7 その他

(1) 富山大学留学生教育指導連絡会議

2002年9月24日に「富山大学留学生指導連絡会議要項」を制定し, 以来, 留学生指導等の充実を図るために連絡会議を開催し, 留学生に関する様々な問題について各学部の教員及び事務との情報交換・意見交換を行って来たが, 2006年7月21日に「富山大学留学生教育指導連絡会議」として再スタートし, 引き続き留学生の教育及び生活指導等の充実を図ることを目的に, 各学部や留学支援チームと連携して会議を開催して情報・意見の交換, 収集を行った。2009年度からは, より緊密な連携のため, 教員だけでなく各学部の事務職員も会議に参加している。

<開催日>

2010年9月28日(火)

2011年2月23日(水)

(2)「留学座談会」

大学在学中に留学を考えている学生と留学経験者が集い、留学に関する情報提供や意見交換を行った。

<開催日時・場所>

2011年1月19日(水) 17:00～19:00

学務部会議室

<参加者数>

留学経験者 5人

留学希望者 14人

8 おわりに

2010年10月現在、富山大学には324人の外国人留学生在籍している。

富山県では、県内在住の大学等の私費留学生に対し、県から「富山県国際交流奨学金」が支給されている。また、国民健康保険料の助成もおこなわれている。さらに、2002年10月より公益財団法人とやま国際センターが、富山県、富山県婦翔会、留学生を受け入れる富山県内の大学・短大・高専、宅地建物取引業の団体などの連携協力のもとに、「留学生住宅確保支援制度」を実施している。こうした地域の人々の暖かい支援により、留学生がより安定した環境の中で安心して留学生活を送ることができるようになり、大変感謝している。

これからも地域との緊密な連携をはかり、留学生支援体制の充実のため一層の努力をしていきたい。